学校番号	103

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	新編化学基礎（東京書籍）						
副教材等	新課程　ネオパルノート　化学基礎（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・年間の授業を通して、日常生活を支えている化学の基本的な知識を習得します。
・日常生活で当然のように利用している化学製品や材料が、化学の知識や研究によって生み出されてきたことを踏まえ、日々の生活でふと感じる些細な疑問にも探究心をもつことが大切です。
・1 つの授業で学んだ用語や化学式などは、今後何度も授業の中で活用することになるので、学習した日から間を置かずにこまめに復習をするようにしましょう。
・家庭学習における課題や、授業中のノートは、定期的に提出してもらいます。一つ一つ丁寧に取り組みましょう。

2　学習の到達目標

(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験の基本操作や物質を探究する手法を身に付ける。
(2) 分離・精製や物質の性質、化学反応に関する観察や実験を行い、科学的に探究し、論理的に考察する力を養う。
(3) 物質とその変化に主体的に関わり、物質の変化に関する規則性や関係性を見いだし、科学的に探究しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活や化学技術との関連を図りながら、化学物質の性質や化学反応についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的な探究に必要となる実験、観察などに関する基本的な操作や基本的な実験技能を身につけている。	化学物質の特質や身近な化学現象から課題を見いだし、仮説を以て実験や観察などを行い、実験結果の分析や考察を通して仮説の検証を行い、表現するなど、科学的に探究している。	物質の性質や化学現象に対し、主体的に課題に取り組み、学習内容を振り返ったりするなど、学習に対して意欲的に取り組めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	化学と人間生活	物質の成分と構成元素 ・ 物質の成分 ・ 物質の構成元素 ・ 物質の三態	a:物質を構成する成分や原子の構造、その結合の原理について基本的な知識を身に付けている。また，物質の分離・成分元素の確認・物質の性質観察などの基本的な 実験操作を身に付けている。 b:物質の成分元素と結合の種類との間の法則性について考察し、表現することができる。 c:物質の構成および化学結合と物質の性質に関心を持ち、意欲的に探求しようとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ 実験操作	定期考査 レポート 実験考察	授業観察 レポート ノート提出 実験態度
	物質の構成	原子の構造と元素の周期表 ・ 原子の構造 ・ 電子配置と周期表 化学結合 ・ イオンとイオン結合 ・ 分子と共有結合 ・ 金属と金属結合 ・ 化学結合と物質の分類		定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 グループワーク	授業観察 グループワーク ノート提出
2学期	物質の変化	物質量と化学反応式 ・ 原子量・分子量・式量 ・ 物質量 ・ 溶液の濃度 ・ 化学反応の表し方 ・ 化学反応式の表す量的関係	a:授業・実験などを通して、化学反応の量的関係を扱うために必要な基本的な知識を身に付けている。また、様々な化学反応について的確に考察するために必要な知識が身についている。 b：化学変化において成り立つ一定の量的関係を理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断することができる。実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理によって、結果を化学的に考察することができる。 c：様々な化学反応について関心を持ち、日常生活や身の回りの科学技術と結び付け探求することができている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ 実験操作	定期考査 レポート 実験考察	授業観察 レポート ノート提出 実験態度
		酸と塩基 ・ 酸と塩基 ・ 水素イオン濃度と pH ・ 中和反応と塩の生成 ・ 中和滴定		定期考査 確認ﾃｽﾄ 実験操作	定期考査 レポート 実験考察	授業観察 レポート ノート提出 実験態度
3学期		酸化還元反応 ・ 酸化と還元 ・ 酸化剤と還元剤の反応 ・ 酸化還元の量的関係 ・ 金属のイオン化傾向 ・ 電池 ・ 金属の精錬 ・ 電気分解		定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 グループワーク	授業観察 グループワーク ノート提出